

第1回 コミスク評価委員会のまとめ

R5.1.20 釜戸小会議室 司会:教頭 記録:教務

《あいさつ》 出席者、自己紹介の後

*平尾 巖様

- ・コミスクについて、1年目の準備段階を含め、2・3年目で子供たちも慣れてきたし、地域の方皆様の協力を得られている。
- ・地域人材が豊富(いろんな才能・能力を持っている方が多い)。
- ・資料から、子供たちから高い評価を得ていることが分かる。
- ・野外活動や川、ゴルフなど、参観すると、よい顔をして子供たちが取り組んでいる。
- ・今後も、いろんな方に参加していただき、地域に密着した活動ができるとよい。

*遠藤晶子校長

- ・コミュニティスクールであることが児童に定着してきた。
- ・学校運営協議会は2回あり、第1回は5月と第2回は1月末に行われる。第1回で「承認」され、委員さんと学校職員とで「一緒にやっぺいこう!!」と確認して活動してきた。それができていたかについて、評価していただく。

《評価委員会の目的の確認》

*経営方針に沿って実践してきたことと結果の説明

- ・実践の「意図と内容」及びアンケート(児童・保護者・教職員・学校運営協議会委員)の結果について

《ご意見》

安江委員

- ・「地域への思い 児童アンケート」について
「地域をよくするために、自分に何ができるかを考えることがある。」で、高学年がよいのは、当たり前。3～6年生の平均を結果にしてしまうのは、乱暴ではないか。学年ごとに示してもらえるとよい。
- ・学校だよりが、内容と量が多くて読みづらい。回覧文書なので読めないまま回さざるを得ない。改善を!

水野委員

- ・「家庭と学校の教育 振り返りアンケート」について
家庭を高めていくということが必要だと捉えた。釜戸公民館主催の親子で一緒に行う講座に参加すると→家庭での話題につながるのではないかと。公民館と連携を図るなど、いろいろなところとつながりながら、活動を広げていく。
- ・パレオパラドキシアの発見・釜戸と化石博物館をつなげるなどして、今年度盛り上がったことが、今年度で終わるのでなく、子供たちに引き継がれていくとよい。

小栗委員

- ・大切な子供たち、地域のことを大事に思い、忘れない子になってほしい。
- ・地域、学校、家庭で「たくましい子」を育てていきたい。
- ・家族に児童がおらず関りが少ない私たち意外に、若い年代の方を評価委員に入れてはどうか。

平尾会長

- ・子供たちと活動を共にすると、いろんな質問をしてくる。深いなと思う質問もある。子供たちなりに、地域に

ついて考え疑問をもっていることが分かる。

≪ 今年度の評価と来年度の方向 ≫

(1) 目指す子ども像に近づくために

- ① 魅力に気付かせる活動○
- ② 地域の人材を生かす○
- ③ 安全確保・環境整備のための活動○
- ④ 地域でコミスクを話題にする△

・地域の人たちは、コミスクの活動(学校に来ること)を楽しみにしていると思う。

・職員が異動しても地域の方が同じように指導するのがよい。

・土岐川清掃と一緒に、カワゲラウオッチングで使う場所の草刈りもできた。

- ④ が、なかなか難しい。子どもが学校に関わっていないと、全般の人を取り入れるのは難しい。一度に数字を上げるのは難しい。

この項目が、一番難しいが、昨年度よりも数値が上がっている。それでよいのではないか。

- ②地域の指導者として、学校に来ていても、「コミスク」という意識は薄い。学校に来る機会に、コミスクについて話をするとよい。

・化石以外にも釜戸駅、佐々良木川、大湫の大杉等、自然や文化、歴史に魅力がある。伝えていきたい。

- ⑤ 学校運営協議会・地域学校協働活動本部の組織や各部会の活動について
- ⑥ 学習地域活動部会の活動内容○
- ⑦ 安全環境部会の活動内容○
- ⑧ 会議や部会の開催時期・回数・内容○

・⑦について、低い評価をされたのは、会議に参加できないことが多かった北中の校長先生。ご自身の参加についてふり返られた。北中を含め校区の4小学校が全部コミスクになることを考えると、北中の校長先生を委員にすることには無理がある。見直しをする必要がある。

・通学の安全・・・19号の「ぬけみち」になっているため、心配。(宿・公文垣内・町屋の通学路)

≪ 市教育委員会より(吉村先生) ≫

・この会での丁寧な評価が、ありがたい。

・コミュニティスクールの趣旨「地域の方々が、主となって活動を進めていく」が実現している。

・地域の方・委員の方が、自ら動いていってくださっているのがうかがえる。すばらしい。

・教職員の記述欄に「地域の方の熱量に負けているので、子供も職員も意欲的にふるさと教育に携わりたい」がある。地域のよさに触れて、教職員が意欲を増していることが分かり、これもすごい。

・無理をしないで徐々に進めていく姿勢がよく、とても大切。10年20年後(長い目で見て)、今の子ども達が成人した時、どうなっているかを楽しみに。

・④「地域でコミスクを話題にする。」が低い評価だということであったが、記述の内容を見ると、これは、むしろ、成果やよさであると思えてくる。「学校の通信を回覧し、話したりしましたが、全員で共有するまではいきません。」「会う人には説明しましたが、まだまだだと思えます。」「まだ十分な浸透度ではないため、さらにいろいろな活動の機会を利用して広めていきたい。」等、さらに!を求める前向きな内容である。